

平成23年(2011)6月1日発

編集・発行  
書学書道史学会  
会報委員会

東京都渋谷区桜丘町29-35  
〒150-0031美術新聞社内  
TEL(03)3462-5251  
FAX(03)3464-8521

## 大震災の中で

中村 伸夫

翌日行われる後期日程入試の試験場設営の作業を終え、夜に予定されていた学会創立二十周年記念論文集『書学書道史論叢(2011)』の編集会議で東京に向くため、一旦自宅にもどった矢先の出来事でした。三度にわたる震度6の大きな揺れが、小さな家屋をゆさぶって本棚を倒し、陶磁器の群れを打ち砕いたのは。

あの三月十一日午後、私たちを不意に襲った大地震から二か月になります。収まったかに思えた余震は、近頃になって却って更なる不気味さを増して続いています。目に染みる若葉の輝きも、そう簡単には私たちの生活を陰から陽へとは導



いてくれそうにありません。大切な家族を亡くし、家を流された人々の悲しみや無念さに比べれば、自分など幸せなものだと思いつつ、心の底に沈んだままの暗くて重いものを払い切るこ

とができない日々が続いています。

私が勤務する筑波大学では建物や機材などを中心に六十三億円もの被害ができました。東北の被災地出身の学生も多く、彼らを支援するための大学独自の義捐金制度も立ち上げ、一定の成果を上げています。何よりも奇跡的で幸運だったことは、地震の当日が春休みに入った直後で、なおかつ入試前日の校舎内立ち入り禁止の午後だったため、学内では学生、教職員を含め、一人の負傷者もなかったことでした。

四月中旬の大雨のころ、二十歳になる下の娘が東京都の募集に応じてボランティア活動に参加し、気仙沼の被災地で三日ほど汗を流しました。何人かでグループを組み、津波が押し寄せた半壊の家屋内のヘドロを除去する作業にあたったという事です。帰宅した彼女から、押し入れのような奥まった所から一メートル近くもある悪臭耐えがたい大きな魚を引っぱりだした話を聞いたとき、テレビでは何度も見ていたはずの津波の無慈悲と、その凄まじさに改めて感じ入った次第です。

大地震のため開催が延期された『書学書道史論叢(2011)』の最終段階での編集会議、および一連の作業については、その後の余震が続く中、日を改めて継続されました。震災にともなう用紙不足その他諸般の事情から、発売予定が五月末日となることについては、二十名の論文寄稿者全員に対し、五月五日付けで販売元の萱原書房から連絡があったところです。記念論文集編集委員会委員長の河内利治常任理事を中心に、編集局長の私が補助をつとめ、最終局面では大橋修一理事長も加わり、萱原書房のご協力を得て、ようやく上梓にまで漕ぎ着けることができました。

第22回 書学書道史学会大会のご案内

今年度の書学書道史学会大会は、一月二日(土)、一日三日(日)の両日、大東文化大学板橋キャンパスにおいて開催いたします。

詳細は改めて、研究発表のレジュメとともにプログラムをお知らせしますが、

現時点での計画は以下のとおりです。



○理事会：一月二日(土) 午前二時から、板橋キャンパス2号館二〇二  
二一会議室にて開催。

○大会：一月二日(土) 午後一時三〇分から、板橋キャンパス1号館にて、受付開始。午後二時から総会、午後三時から研究発表。一日三日(日) 午前九時三〇分から研究発表。(今年も研究発表は、すべて同一会場にて順次行う予定)

○会場：両日ともに大東文化大学板橋キャンパス1号館一〇二〇二教室。

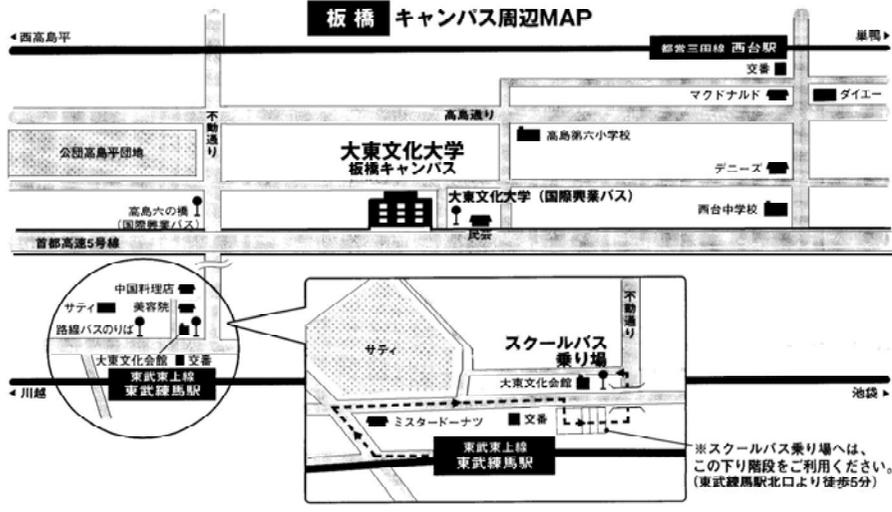
○懇親会：一月二日(土) 午後五時三〇分から、板橋キャンパス内にて開催予定。

○展示：一月二日(土)、一日三日(日)の両日、本学収蔵品の一端を、板橋キャンパス3号館ギャラリーほかにて公開予定。

○会場への交通：東武東上線「東武練馬」北口下車(徒歩約二〇分)。都営三田線「西台」西口下車(徒歩約一〇分)。なお、一日二日(土)は、大東文化会館



板橋 キャンパス周辺MAP



(東武練馬駅下車)からスクールバスの利用ができます。  
○宿泊用のホテル：役員・会員ともに各自で手配下さい。

(国内局)

※スクールバス乗り場へは、この下り階段をご利用ください。(東武練馬駅北口より徒歩5分)

第22回 大会研究発表募集要項

(国内局)

第7回 会員のための鑑賞セミナー報告(国内局)

今秋の「第22回書学書道史学会大会」は、東京・大東文化大学板橋校舎において別項のとおり開催されます。研究発表会場は今年も従来通り一室制とし、原則として分科会方式はとりません。多くの会員各位の積極的な発表を期待します。奮ってお申し込み下さい。

記

①発表日時：平成二三年一月一二日

(土) 午後・一三日(日) 午前～午後

②発表時間：各三〇分(発表二〇分・質疑応答一〇分)

③申込方法：件名を「大会発表申込」として「所属」「氏名」「連絡先」を明記の上、電子メールにて発表内容の「題目とレジュメ(八〇〇字程度の要約)」を添付して下さい。なお、電子メールの使用が困難な場合、以下の大会運営委員会までお問い合わせ下さい。

④レジュメ：原則としてワープロ(テキスト形式、ワード形式、一太郎形式など可)で作成し、電子メールに添付してご送信下さい。

⑤発表申込締切：平成二三年七月一六日

(土) 必着

⑥発表者の決定と連絡：大会での発表者は、大会運営委員会で七月中に決定し、個別にご連絡します。

⑦『大会のしおり』(レジュメを含む)の配布：一〇月始めに全会員宛に配布します。

※大会での発表者については、学会誌『書学書道史研究』第二二号(平成二四年秋刊)への論文投稿申込があったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込をする必要はありません。

※発表者の学会誌論文原稿の締切は、平成二四年三月末日です。ただし、原稿の採否は査読委員会決定されます。なお、学会誌掲載についてのご不明の点は、編集局までお問い合わせ下さい。

〈送り先／大会運営委員会〉

送信アドレス：yokota@tomi.ac.jp  
〒三五二一八五〇一 埼玉県新座市中野一―九一六 跡見学園女子大学文学部 横田恭三宛て  
TEL 〇四八―四七八―三三三三

平成二三年二月一三日(日) 一四時から一六時まで、大阪市立美術館において、会員のための特別鑑賞セミナーを実施した。

今回で七回目となる鑑賞会では、同館蔵の中国・日本の名跡約一五点を特別陳列いただいた。参加者二〇名は、広い館内でじっくり名跡を鑑賞した後、主任学芸員・弓野隆之氏による作品解説を聴くことができた。中国と日本の作品、また漢字と仮名の作品を同時に鑑賞できる貴重な機会となった。十分な鑑賞時間を確保していただいたこともあり、作品を前にしながら会員相互の親睦もはかれることができた。

主たる陳列作品と時代は、以下の通り。「明拓孔宙碑」(後漢)、「清拓天発神識碑整本」(吳)、「王鐸・臨淳化閣帖」(清)、「陳鵬年・行書西山望晴雪詩」(清)、「趙之謙・尺牘冊」(清)以上中国、「法華経断簡(二月堂焼経)」(奈良)、「伝浅野魚養・大般若経(薬師寺経)」(奈良)、「大金色孔雀王呪経(神護寺経)」(平安後期)、「針切」(平安後期)、「多賀切」(平安後期)。

「主として学生・若手の会員に発表の場を与え、研究の活性化と研究者の育成を図る」という目的で開催している研究発表会です。

今回は、発表のあと座談会形式で参加者相互に書めぐって意見交換をする場を設けました。大変好評でしたので、今回も同様な方法を進めます。ふるってご参加下さい(非会員の来聴可)。

日時：平成二三年六月二六日(日)

午後一時～五時/二時三〇分受付開始

会場：跡見学園女子大学 文京キャンパス(東京都文京区大塚) 2号館M二三〇一教室

交通：地下鉄・丸ノ内線「茗荷谷駅」下車徒歩二分

内容：①若手研究発表 公募による三名の発表

②意見交換会 「パフォーマンス書道の歴史とあり方」をめぐる座談会

近年、高校・大学の書道部による「パフォーマンス書道」が話題となっており、予め指定された担当者が、パフォーマンス書道の歴史を踏まえて話題を提供したのち、参加者全員から自由に意見をもらうという座談会形式で行います。

＜研究発表題目と要旨＞

①書写教育における理想の平仮名字形

—「ふ」を中心として—

京都大学大学院 博士後期課程

北山 聡佳

平仮名は義務教育で最初に学ぶ文字である。しかし、平仮名には未だ標準字形が存在せず、文部科学

省による『小学校学習指導要領』に則って、正しい平仮名を教えるはずの書写の教科用図書(以下、教科書)においてさえ、その字形は統一されていない。仮名に関する研究は、多く行われており、字源から平仮名成立までを明らかにする著書も多く存在する。しかし、現在の平仮名の変種について詳しく述べるものは管見の限りない。そこで、本研究は、文字教育における平仮名、特に「ふ」の字形の変遷を分析し、理想の「ふ」を確立することを目的とする。

まず、第一章では、現行の六社による教科書を考察対象とし、「ふ」の字形を比較、分析する。第二章においては、江戸時代の寺子屋教育や藩校等における手本の字形から、文部省設立後の明治検定教科書、国定教科書、さらに、戦後に復活し、現在にも続く検定教科書に至るまで、「ふ」の変遷を追う。戦後検定教科書に限っては、すべての小学校第一学年書写用教科書における「ふ」を検証した。そこから、「ふ」の一面目は「う」、「え」、「ら」、三面目は「な」、「や」、四面目は「お」、「む」の各筆画と密接に関係していることが分かった。さらに、それらの字形も併せて変遷を追い、最終章では書写教育における理想の「ふ」の字形を提示し、結論とした。

②張廷済と米芾

佛敎大学大学院 博士後期課程

川合 尚子

清代の金石学者・文物収集家として有名な張廷済であるが、書画や篆刻にも工夫で多くの作品を創り、称賛されている。太平天国の乱で、張廷済の自宅であった清儀閣は破壊され、そこに収蔵されていた文物、書画、書物などは散逸してしまった。しかし、張廷済が亡くなり約百年後、破壊を免れた著作、書・篆刻作品が各地の古書店、張廷済の旧友宅から発見されたため、褚德彝が中心となり、張廷済を偲んで彼の著作、遺墨集を商務印書館や神州国光社、西

冷印社などから出版した。その中でも、『清儀老人遺墨』(二冊)には、張廷済の墨跡ばかりが収録され、彼の書作品について知ることが出来る。

張廷済の書については、伝記資料で様子を探ることができたが、実際に目にする機会は少なく、『清儀老人遺墨』もまだ広くは知られていない。張廷済は、米芾の書法を好んで学び、自分のものにした。米芾の書を学んだだけでなく、米芾の生き方、思想にも共感したのではないかと考えられる。今回は、『清儀老人遺墨』の作品をもとに、今まで明らかにされなかった張廷済の書についての研究として、張廷済が米芾をどのように受け止めたかを探る。

③張懷瓘書論の射程

大東文化大学大学院 博士課程後期課程

亀澤 孝幸

八世紀前半、盛唐に活躍した張懷瓘は、書に関する豊富な著作を残した論書家として知られる。その書論のスタイルや内容は、たとえばその主著『書断』が庾肩吾以来の書品論を踏襲し、また書の批評において技法よりも精神性を重視するところから、六朝書論の延長線上にある「伝統派の書論」(中田勇次郎『中国書論史』)であると目されている。

だが、張懷瓘の書論において注目されるのは、書の本質について、独自の哲学を示していることだ。そのような点については、つとに杉村邦彦氏(『張懷瓘の書論』)、塚本宏氏(『文字論』—張懷瓘の鑑賞論考察—)らによって指摘されている。

張懷瓘は、書の自立的な価値を、言葉、文字との構造的な関係においてとらえ、その独自の位相をあきらかにしようとする—「文は則ち数言にして乃ち其の意を成し、書は則ち一字にして已に其の心を見(あらわ)す。」「字は之れ書と、理も亦た一に帰す。文に因りて用を為し、相い須(まつ)て成る」(『文字論』)。このような張懷瓘の書の存在論は、『易』繫辞

伝の言語哲学、『説文』叙の文字論、さらに魏晋南北朝の文学論を承けて練り上げられたものである。それは書に独自の価値根拠を与える理論として透徹したものだ。しかし、その企図はどこにあったか。

文学論はすでに魏晋南北朝において黄金期を迎え、唐代には文学の価値の理論的根拠が確立していた。一方、書は、梁武帝や唐太宗らによって国家的な保護と宣揚を受け、唐代には芸術として広く認められるようになっていたが、その理論的根拠は未だ薄弱であった。玄宗朝において翰林院に入り、「書」の研究者として、当時の文教政策の一翼になっていた（杉村氏前掲論文）張懷瓘は、そのことを十分に意識して、書という芸術に、文学に比肩しうる価値を与えようとしたのではなかったか。

「パフォーマンス書道の歴史とあり方」をめぐる座談会  
 話題提供者 笠嶋忠幸（出光美術館学芸課長代理）  
 石井 健（東京学芸大学准教授）

上記二名から「パフォーマンス書道の歴史」に関して話題提供していただき、その後、会場から随時意見をもらい、「パフォーマンス書道の歴史とあり方」について考える場にしたいと考えています。

「パフォーマンス書道の歴史とあり方」をめぐる座談会  
 話題提供者 笠嶋忠幸（出光美術館学芸課長代理）  
 石井 健（東京学芸大学准教授）

上記二名から「パフォーマンス書道の歴史」に関して話題提供していただき、その後、会場から随時意見をもらい、「パフォーマンス書道の歴史とあり方」について考える場にしたいと考えています。



創立二十周年記念論文集

『書学書道史論叢／2011』編集報告（編集局）

学会創立二十周年記念論文集『書学書道史論叢／2011』（A五、五九六ページ、定価三六〇〇円、萱原書房）の発刊は、このたびの大震災に伴う用紙不足等の諸事情により五月三一日となりました。まずはこの遅延につきお詫びいたします。

本書の出版は、当学会の創立二十周年を記念し、書学書道史研究の最前線の成果を世に問うべく企画されたものです。編集方針の骨子は一昨年夏の理事会で承認され、同年秋季に開催された理事会では、河内利治常任理事が編集委員会委員長に、編集局の中村が補佐役になることが決まりました。

版元を引き受けていただくことになった萱原書房の協力を得て、寄稿された全二十編の論文に対し、編集作業を進めてまいりました。しかし、最終段階における大震災の影響のみならず、一連の作業は決して平坦なものではありませんでした。

関係諸氏のご支援を得て、中国関係十二編、日本関係八編からなる、多彩な内容を誇る大冊の論文集として上梓できる運びとなったことをご報告いたします。以下に列記するのは収載論文の執筆者名です。

- 興膳 宏、古谷 稔、杉村邦彦、浦野俊則、大野修作、大橋修一、柿木原くみ、笠嶋忠幸、萱のり子、河内利治、菅野智明、澤田雅弘、杉浦妙子、高城弘一、富田 淳、中村伸夫、名児耶明、福田哲之、森岡 隆、横田恭三
- （収載順）

「活動方針」と「在り方」について（国際局）

平成二二年度から、国際局としての「活動方針」と「在り方」の二点について、理事会ならびに総会の承認を経て、実行に移し始めた。

1、国際局の活動方針…情報発信の推進 II 「海外で開催されるシンポジウム・展覧会など各種情報の発信を学会ホームページで始める。」すでにホームページ「お知らせ」（二〇一〇年七月二七日付）に『沙孟海生誕百十周年記念・中国書学国際学術研討会／論文募集要項』を掲載したが、さらに多くの情報発信を進めるため、具体的にはホームページ委員会を立ち上げるなど、理事長、事務局長と相談しながら進めてきた。実際に「ホームページ設置準備委員会」河内利治委員長・笠嶋忠幸副委員長のもと新規ホームページの設置準備を進めているが、一方で現行のホームページが昨年一月以降諸事情のため運営できなくなり、国際局の新たな発信ができなくなっているのが現状である。

2、国際大会の在り方…海外研究者の招聘の方向 II 「国際大会は、A 海外参加型、B 国内招聘型に分けられるが、今後予算の範囲内で海外の研究者を本学会で招聘するBの方向を進める。」この「在り方」に従い、平成二二年度は、林業強氏（香港中文大学文物館館長）による講演が、二〇一一年三月一九日（土）一三時半～一五時、東京国立博物館平成館大講堂において開催され、本学会としてその後援を予定であった。しかし三・一一大震災発生により、東京国立博物館が林業強氏の来日延期を決定したため、国際局もその決定に従い、年度内の実施は不可能になった。

国際局の新たな船出を期し、「活動方針」と「在り方」を決定して順調に動き出したかに見えたが、予期せぬ現行ホームページの停止、東日本大震災の影響を受け、諸活動が止むを得ない現状にある。次年度以降は、一歩でも前進できればと祈念している。

平成22年度 科学研究費補助金本会関係者採択課題一覽

(事務局)

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者(会員)とを併記した。なお、所属の後半の数字は、平成二二年度のみの補助金の額。

治(大東文化大学) 2,600千円

基盤研究(B) 継続(平成二〇〇) 大学での学びを高め卒業時の能力保証を生み出す授業の開発に関する実証的研究 鈴木慶子(長崎大学) ※代表・橋本健夫(長崎大学) 1,690千円

基盤研究(B) 継続(平成二二〇) 中国道教における山岳信仰と宗教施設のネットワークに関する総合的調査と研究 土屋昌明(専修大学) 6,630千円

基盤研究(B) 新規 六朝隋唐時代をめぐる仏教社会基層構造の解明と仏教石刻資料データベースの構築 賀沢保規(明治大学) 7,410千円

基盤研究(C) 継続(平成一九〇) 「高野切本古今集」全2巻の復元研究―古筆復元の方法論の確立― 森岡隆(筑波大学) 1,690千円

基盤研究(C) 継続(平成二〇〇) 「言語力」及び「社会力」を育成する教員養成課程におけるITカリキュラムの開発 青山浩之(横浜国立大学) ※代表・高木まさき(横浜国立大学) 2,800千円

基盤研究(C) 継続(平成二〇〇) 中国北朝墓誌工房の基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学) 6,501千円

基盤研究(C) 継続(平成二〇〇) 記述力の変容を促す書字行動及び書字習慣の追跡と分析 鈴木慶子(長崎大学) 1,040千円

基盤研究(C) 継続(平成二〇〇) 戦国簡牘文字の地域差に関する基礎的研究 福田哲之(島根大学) 6,600千円

基盤研究(C) 継続(平成二二〇) 日本の篆刻に関する基礎的研究 神野雄二(熊本大学) 7,800千円

基盤研究(C) 新規(平成二二〇) 中国書画の表装に関する基礎的研究 富田淳(東京国立博物館) 1,820千円

基盤研究(C) 新規 周日校刊『三国志通俗演義』についての研究 中川諭(大東文化大学) 6,200千円

基盤研究(C) 新規 中国南北朝時代の墓誌銘と造像記の接点―妻子・門弟の文末記録から闡明を迫る― 東賢司(愛媛大学) 1,820千円

基盤研究(C) 新規 中学校国語科書写における書字過程に着目した行書教材及び授業開発 樋口咲子(千葉大学) 2,200千円

挑戦的萌芽研究 新規 「言語力」育成に機能する書字教育カリキュラムの開発 青山浩之(横浜国立大学) 5,000千円

挑戦的萌芽研究 新規 中国碑帖拓本の文献学的研究―図書館と美術館をつなぐ― 菅野智明(筑波大学) 900千円

特定領域研究 継続(平成一七〇) 東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成―寧波を焦点とする学際的創生― 総括班 板倉聖哲(東京大学) ※代表・小島毅(東京大学) 1,500千円

若手研究(B) 新規 中国清代における法帖刊行の歴史学的研究 増田知之(京都大学) 1,600千円

若手研究(B) 新規 楚簡による戦国文字資料の再検討―「伝抄古文」と「古璽」を中心に― 山元宣宏(京都大学) 1,560千円

特別研究員奨励費 継続(平成二二〇) 奈良朝文書の書体選択と中国受容―国家珍宝帳を中心として― 川上貴子(九州大学) 700千円

基盤研究(S) 継続(平成一九〇) 美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究―全アジアから全世界へ― 板倉聖哲(東京大学) ※代表・小川裕充(東京大学) 9,100千円

基盤研究(A) 継続(平成一九〇) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表・佐々木丞平(京都国立博物館) 5,200千円

基盤研究(B) 継続(平成一九〇) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 赤尾栄慶(京都国立博物館) 4,500千円

基盤研究(B) 継続(平成一九〇) 真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究―金剛寺本を中心に― 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表・後藤昭雄(成城大学) 4,810千円

基盤研究(B) 継続(平成一九〇) 故宮博物院に収蔵される甲骨文の来源踏査―未刊本『甲骨刻辞』の解説を通して― 東賢司(愛媛大学) 1,430千円

基盤研究(B) 継続(平成二〇〇) 智積院聖教における典籍・文書の基礎的研究 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表・宇都宮啓吾(大阪大谷大学) 8,190千円

基盤研究(B) 継続(平成二〇〇) アメリカ収蔵「書跡」の基礎データ収集と整理のための調査研究 河内利

事務局だより

◆学会ホームページのリニューアルについて

二〇一一年四月に学会ホームページがリニューアルされ、ただいまウェブ上で試験稼働中です。本格運用は七月末を予定しています。

これまでのホームページとの大きな違いは、レイアウトやデザイン面、さらに情報検索の改善がみられます。が、何より独自ドメイン「www.shogaku-shodoushi.org」を正式に取得した点です。これにより社会的な認知が格段に上がり、会員間の情報共有ポータルサイトとしての活用が大いに期待されます。またパソコン上での閲覧以外に、ス



マートフォンや携帯電話といったモバイル媒体からの閲覧も可能となっています。

この度のリニューアルを機に、会員及び関係機関等へ本学会の活動内容を公開し、またこれら活動実績の情報を幅広く発信することになります。本格運用以後は、新たに「ホームページ運営委員会」を設置し、迅速かつ円滑な運営と管理にあたり、会員相互の有意義な交流を推進したいと考えております。

◆学生会員の「会員登録」について

学会では、すでに学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は、学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了し、あるいは満期退学・自主退学、その他の理由により学籍を失った時（学割証の発給対象でなくなった時）に、一旦「学生会員資格終了」とするものです。該当の方が引き続き学会会員として留まろうとする場合には、必ず「会員手続き」が必要です。この「会員手続き」用紙は、学会ホームページから、ダウンロードしてご利用下さい。この「会員手続き」は届け出事項のため、書類提出のみで、学生会員資格の終了時点から自動的に一般会員資格が付与されます。

なお、一般会員の方が大学院に社会人入学するなどして学生会員の適用を受けようとする場合には、「学生会員移行申込書」の提出を要します。この申込書を提出せずに学生会員の資格を得る（学生会費の適用を受ける）ことはできません。また、「会員手続き」なしに一般会員に戻ることもできません。したがって、今春に学生会員資格を失った方、一方今春に大学院へ社会人入学した方で学

（事務局）

生会員の適用を受けようとする方は、至急手続きをお願いいたします。

一般会員のままで大学院に通う場合は、手続き等には必要ありません。また一昨年度までに入会した学生会員の方で、今春学生会員資格を失った方も、制度の趣旨に照らし、全員「会員手続き」をお取り下さるよう、お願いします。

◆本年度分年会費の納入について

本号に年会費をご納入頂くための郵便振替用紙を同封しました。振替用紙が同封されていない方は、すでに二〇一一年度分の会費が納入済みの方です。

また、二〇一一年三月現在、満三年以上会費を滞納している方には、「●会費至急納入願」と記載のある振替用紙を同封しています。この用紙同封の方は、必ず六月三〇日までに全額をご納入下さい。ご納入がない場合は、すでに導入されています「長期会費滞納者の自動退会（除籍）制」の適用対象となります。

また、会費滞納による除籍会員に対する学会の会費請求権は消滅せず、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入要請を続けることが総会決定されていますので、ご了承ください。

◆次回理事会のお知らせ

第五一回臨時理事会の開催については、七月下旬から八月初旬にかけて予定しております。これは震災によって各大学で学務日程の変更が行われたため、役員各位の予定を目下調整中という事情があります。日程及び開催場所が決定しましたら、役員各位には改めてご案内を差し上げますが、予めご予定にお入れいただければ幸いです。

談話室

支援の形

角田健一

三月一日、東日本を襲った未だ曾て無い大災害。報道で、洗濯が困難な場所にクリーニング業者がトラックに機材を積んで駆けつけ、支援する映像を目にした。私達には発想すらできぬ支援である。凄いと、思う反面、自分の無力さを痛感した。多くの人が各々の分野で「何ができるのか」を考え、行動に移している。

そんな中、五月三日に大東文化会館で書道学科主催「復興支援書道用品大抽選会」が開催された。専任の先生方から自宅や研究室に眠る貴重な書籍、用具等の提供を頂き、更には二一社の協賛を得て、計三〇〇〇点超の物品が集まった。学生や卒業生を含め約一八〇名が参加し、盛大であった。間接的ではあるが、書に携わる者ができる、支援のあり方の一つである。

「手紙」に見る文字意識

小林比出代

PC（古くはワープロ）普及以降の「手紙」は、時代の活字と手書きとの文字意識に関する風潮を端的に表してきた。一九九〇年代末、勤務校の生徒対象に、手書き・明朝体活字・毛筆体活字で記した数種の「手紙」について、それぞれ一番好ましく思うものとその理由を調査し、高校生はどんな場面で活字を肯定し否定するのか、活字文化をどのように捉えているのか考察を試みた。

心情面で大切にされ文字そのものが内容のイメージとなる手書き文字と、手紙の内容自身が前面に押し出される易い活字文字。両者の折衷を模索する姿勢が見て取れた。

未曾有の大震災から二ヶ月、人と人との絆や温もりが話題に上る中、現在の高校生に同じ調査を行ったらどのような結果が出るだろうか。

巴金先生の筆力

中元雅昭

本年度から母校で中国語の講座を担当させてい

ただいている。熱心に発音の基礎から学ぶ学生の姿を前に、ふと、自身の北京留学時代を思い起こした。

それは、二〇〇五年一〇月一七日一九時六分のことであった。大文豪・巴金先生がご永逝された。翌日、私は先生が生前、設立にご尽力された「中国現代文学館」に参じた。遺影の前で合掌し、ご冥福を深く祈った。以前、中国語の世界大会に出場した際、先生の作品を朗読させていただいたからだ。

ここには、先生の貴重な肉筆原稿も展示されていた。その筆跡からは、激動の世紀を駆け抜けた文豪の魂が、万鈞の重みを以て胸に迫ってきた。漢語と漢字のもつ力を、後生に強く伝えていく決意である。

田近コレクション

濱田尚文

成田山書道美術館で「田近憲三蒐集拓本と館蔵の篆隸」展を参観した。田近氏は戦後、洋画を中心とする美術評論家として活躍する一方で、生涯に亘って拓本の蒐集に熱中し、手ずから多くの拓本を剪装本に仕立てて愛玩した。

蔵拓は『書跡名品叢刊』（二玄社刊）の底本になっているものが多数あることでも知られている。そして、現在は当美術館に収蔵され、『成田山書道美術館所蔵田近憲三旧蔵拓本目録』（二〇〇四年発行）により整理されている。

今展の拓本の出品数は二五と少ないが、「曹全碑」「道因法師碑」等の名品叢刊の底本になっているもの六、自装本四点が印象深く、氏の拓本に対する深い愛着が感じられる展覧だった。

文化財保護に対する意識

六人部克典

文化財が環境の変化や災害等によって損傷、亡失することは決して否めない。ただ、先人が生み出し現代まで遺されてきたものを、最大限に次代へと引き継ぐことは、現代に生きる者の責務では

ないだろうか。

この度の震災による被害は、文化財や伝統産業においても甚大なものであり、そこに携わってこられた被災者の方の思いは、想像に堪えない。

今は、被災地が一日も早く復興し、より多くの文化財が修復、継承されることを切に願うばかりである。

そして、災害からの文化財保護に対する意識を高くもち、それに関する知識を少しでも多く身につけていきたい。

会 員 動 静

- 平形 精一(諮問委員) 〓常葉学園大学教授新任
- 岡田 直樹(会員) 〓京都教育大学教授昇任
- 野中 浩俊(参事) 〓岐阜女子大学教授新任
- 石井 健(幹事) 〓東京学芸大学准教授昇任
- 高橋 利郎(会員) 〓大東文化大学准教授新任
- 柿木原くみ(理事) 〓相模女子大学教授昇任

編 集 後 記

◆東日本大震災において被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。勤務先の台東区立書道博物館は休館日であったため、お客様が怪我をされるということはなく、収蔵品等にも実害はありませんでした。しかしながら、不幸中の幸いと安易には言えない心境です。(六人部克典)

◆未曾有の震災により、「新学期」という言葉も長期にわたった。日常の営みを継続することの大切さを、痛切に意識した。卒業制作で故郷の伝統芸能「鹿子踊」唄を書いた学生は、岩手県大槌町の隣の鶴住居という地区の出身だ。五月二日の日本経済新聞に「震災に負けるわけには、一日」の見出しがあった。大槌町白沢地区では、一日に「鹿子踊」が披露されたという記事だった。彼女の故郷・鶴住居でも「鹿子踊」が継続されることを折るものである。本号は震災における用紙不足と経費節減等から、鈴木事務局長に編集・印刷の一切を担当していただいた。(崇)